



消費者教育NPOの法人
お金の学校
くまもと

消費者教育NPO法人

お金の学校くまもと

会報・第24号 2012年 春季発行

〒862-0950 熊本市中央区水前寺 2-21-19 2F 水前寺NPOハウス TEL・FAX 096-384-4453

<http://ogk.main.jp/>

Eメール : gakkou@sat.bbq.jp

発行責任者 徳村美佳

相手を理解するということ

代表 徳村美佳

ある雑誌を読んでいたら、理解とは要約できることと書いてありました。相手がいちばん言いたいことを汲み取る力=要約力。要約ということばから、わたしがすぐに浮かんだのが、SAMPが歌っていた「セロリ」という歌（作詞は山崎まさよし氏）です。「育ってきた環境が違うから好き嫌いは仕方ない 夏がだめだったり セリが好きだったりするのね」と始まります。なんの歌なんだろうと思って聴いていると、「ましてや男と女だからすれちがいはしょうがない 妥協してみたり多くを求めたりなっちゃうね。」と続きます。ここらへんで、男女の恋愛の歌なのかなあという感じです。さらに、「何かきっかけでどんなタイミングで二人は出逢ったんだろう やるせない時とか心許ない夜 出来るだけいっしょにいたいのだ」となってくると、やはり、だれか好きなひとを想ってる状態なのねって思います。最後のほうでは、「Um がんばってみるよやれるだけ がんばってみてよ少しだけ」って、相手に投げかけるような感じになります。さて、問題です。この歌で、いちばん言いたいことはなんでしょう。答えは、最後の歌詞に要約されています。「なんだかんだ言っても つまりは 単純に 君のこと好きなのさ」

この歌では、「つまりは」と最後のほうで、自分から要約してはっきりと好きと言っていますので、いちばん言いたいことがわかります。しかし、相談の現場では、自分の言いたいことを要約して話せるご相談者は、ほとんど（まったくと言ってもよいかも）いません。多重債務・生活困窮相談で話を聴く相手は、複数の要因を抱えている、自分の悩みを整理できない、どこに行けば良いのかわからない状態です。また、こころが弱っていて、疲れ果てていて、ああしろこうしろと言われても動けない状態でもあります。このような状態の相談者への対応の第一歩は、まず、相手の想いを受け止め、相手の想いを理解すること=要約することから始まります。

では、練習問題です。ずっと自殺を考えているひとが、次のように話しました。「天秤の両側に生と死があつて、とにかくどちらでもいいから、強く私の手を引いてくれたほうに転がろうと思っている。それなのに、生も死も、いつも同じ力でしか私を引っ張ってくれようとしなない・・・」さて、このひとがいちばん言いたいことはなんでしょう。

この例題は、社会人対象のワークショップで2人一組になり、お互いをインタビューし合い、最後にそのひとがいちばん言いたいことを一言で要約するワークの中の出来事として、雑誌の中で紹介されていたものです。このとき、この自殺を考えているひとの相手としてじっくり話を聴いたひとが要約したことば、それは、「このひとは、『生きたい』と言っていました」というものでした。（参考：「親と子で考える14歳から人生学」109ページ 2008年 PHP）

わたしは、このように要約できるだろうか・・・自信がありません。ただただ、修行を続けるのみであります。

